

佃幼稚園年度末学校評価自己点検・自己評価

本年度重点をおいた評価項目

(A:十分に出来ている B:出来ている C:取り組んでいるが成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

評価項目	自己評価	結果と分析
教育課程・指導 教育要領の精神を踏まえ、園の方針に従い、指導計画・保育計画を作成する。	A	前年度までの反省を見直しながら、園児の状況を踏まえて計画し、活動に活かせるような打ち合わせや準備を心がけ、実行してきた。毎学期ごとに振り返りを行い、変更点や改善点を話し合ってきた。また、週に一度は週案会を設け、日々の保育計画を話し合い、見直しをもって保育を行ってきた。
日々の保育と幼児への対応 幼児のみとりと理解を深め、日々の保育へ生かし、幼児の生活をよりよいものになるよう努力する。	B	教師一人ひとりが、保育計画を実行することに一生懸命取り組んできた。保育後は学年での時間を設け、保育の振り返りや次の日の保育の確認、子どもたちのことを話し合うなど、共通理解してきた。しかし、園全体での確認や話し合う機会が少ない。また、教師間で保育の工夫や環境づくりへの行動に差が見られる。
教師としての資質や能力、良識、適正 専門家としての能力やマナーを身に着け、組織の一員としての在り方を心がける。	B	園内外の研修や会議などを通して、教師間での共通理解は行ってきた為、個々の資質や能力は向上している。また、保育に活かすこともできている。しかし、一方で相談や伝達など教師間でのコミュニケーションがうまく計れない場面もあった。組織全体としての向上を考えていくべき。
特別支援 個々の園児に対応した指導計画・支援計画の作成を行う。	B	会議や朝礼などを利用し、配慮を要する園児への対応の仕方を教師間で共通理解してきた。しかし、指導計画や支援計画を立て切れず、話し合う時間が少なかった。
研修・研究 園内・園外とも、今日的課題に関する研修・研究に取り組む。	A	指定研究園1年目ということで、保育について話し合う機会が多くもてた。今まで以上に各クラスの様子や子どもたちの姿を伝え合うことで、日々の保育へ改善が見られ、熱心に取り組めた。

次年度への改善点

- 各学年での話し合いは多くもち、意思疎通もできているが、園全体としては話し合ったり共通理解をし合ったりする時間が少ない。保育の質を上げていくためにも、教職員全員で互いの保育を見合う機会や、確認し合う時間を設け、教師間の意識を高めていきたい。
- 特別支援の計画が不十分な為、作成そして共通理解を行っていく。
- 教師間の意思疎通がよりスムーズに行えるよう、より相談しやすい話し合いやすい雰囲気作りを行い、チーム力を高めていきたい。